2005年4月11日

# 一生役に立つ自己学習能力を身に付けよう

## ――「高い学力」をめざして――

開倫塾　　林　明夫

## １．はじめに　－発刊のごあいさつ－

**Ｑ　開倫塾ニュースにこれまでお書きになったものを1冊にまとめて発行なさる理由は何ですか。**

Ａ　(林明夫。以下略)

(1) 開倫塾を創業し、今秋には26年目を迎えようとしています。お陰様で開倫塾はここ数年毎年5千5百名もの塾生が学ぶ学習塾になりました。

(2) 毎年千名以上の新しい塾生をお迎えしたからには、塾生の皆様には開倫塾で確実に学力を身に付けて、「学校の成績向上」と「希望校合格」を果たして頂こうと、250名の先生方と事務職員が文字通り「一所懸命」、命を一つの所に懸けるようなつもりで、一丸となって毎日の教育に当たらせて頂いております。

(3) また、26年間も開倫塾をやっておりますと、新しく入塾なされた塾生の皆様・保護者の皆様だけでなく、既に開倫塾で学ばれておられる塾生や保護者の皆様にお伝えしたいことが、文字通り山のようにあります。

(4) その内容は、毎月発行の「開倫塾ニュース」やラジオ栃木放送「開倫塾の時間」の中で、また、校舎においては授業の合間や個別面談、保護者会などで、折に触れてお伝えさせて頂いております。

(5) さらに今回、これまで私がお伝えしてきた内容を少しまとめて皆様に読んで頂こうと考えたのは、毎月1回の短い文章であってもそれらをまとめて読んで頂くことにより、「高い学力」をめざして一生役に立つ「自己学習能力」をどのように身に付けたらよいのか、その方法がより鮮明になるかも知れないと考えたためです。

## ２．「高い学力」をめざして

**Ｑ　開倫塾の教育目標に掲げられている「高い学力」とは何ですか。**

Ａ　(1) 一人ひとりの塾生の皆様には、自分の中に持っている大切なもの(価値あるもの・善いものと考え、とても大切にしているもの)がおありだと思います。その自分自身の中に持つ大

切なもの・価値あるもの・善いものをもっともっと磨き込んで、もっとキラキラ光るものにしよう、もっと大切さを増そう、もっと価値あるものにしよう、もっと善いものにしようとお考えになる人も多いのではないかと私は考えます。

(2) 自分自身をもっと善くするためには、自分自身で様々なことを知り、自分自身で深くものごとを考え、深い考えに基づいて大切なことは自分自身で決定し、自分の責任で行動し、その責任も自分自身で取ることが求められます。

(3) その結果、成功することもあれば、人生には失敗はつきものですから失敗することもあります。いや、あると断定することさえできます。失敗したら、現実から目を背けることなく深く反省し、自分の力でその原因を考え、二度と同じ誤りをしないように注意した上で、再び「より善い」方向にむけて力を積み重ねる。このような生き方、つまり自分の大切とするもの・価値あるもの・善いと考えるものをもっと善いものにしようと、善さに向かって自ら努力を積み重ねる姿勢が尊いと私は考えます。

(4) 「高い学力」とは、より善くなろうという自分自身をつくり出す基礎となるものです。

**Q　具体的にはどういうことですか。**

A　(1) 人間は一人で生きているわけではありませんから、相手が伝えようとしていることを理解しなければなりません。また、自分の周りの様々な状況、何が起こっているかその状況を自らの力で判断しなければなりません。聴く力、読む力、コミュニケーションをとる力、自然現象や社会の動きを把握する力が求められます。相手の中には母国語を使わない人もいますし、最近ではコミュニケーションの方法としてコンピューターを使う場合も多いのが実情です。ですから、共通語としての「英語」や「情報技術(IT)」も使いこなせなければなりません。

(2) 小学校や中学校、高校で学ぶ全ての事柄は、21世紀の現代に生きる塾生の皆様にとり、自ら善さを生かしながら一生を過ごすために身に付けなければならない基礎的な「学力」であると私は思います。

**Q　「高い」とは、どのような意味ですか。**

A　(1) 現実的な話として、現在開倫塾で勉強しておられる塾生の皆様の大半、90%以上は高校卒業後、大学や短大、専門学校などの所謂(いわゆる)「高等教育機関」に進学なさいます。日本全体の平均は74%ですが、開倫塾の卒塾生の平均は90%を超えています。この割合は

年々高くなり、何年か後には高校進学率と同様に限りなく100%に近づくと私は推測します。

(2) 今は小学生や中学生、高校生ですが、何年後かに大学や短大・専門学校等にほぼ全員が進学なさるのでしたら、入学する前にそれなりの準備をなさることが賢明な生き方であります。

(3) どこの国でも、大学や短大、専門学校ではその国の最高レベルの教育が展開され、熱心に取り組めばその国で最高の教育が受けられます。その意味で、国民の大半が大学等にまで進学でき、高等教育を受ける機会(チャンス)を持てる日本は素晴らしい国であると私は思います。(日本人の平均寿命が84歳と、世界で一番になったことと同じく素晴らしいことであると私は思います。)

(4) ただし、大学等で行われるのは、その国における最高レベルの「研究」や「教育」でありますから、その前提として「高い学力」が求められます。

(5) 開倫塾の塾生の皆様は、今は小学生や中学生、高校生ですが、将来は大学などの「高等教育機関」で日本や世界の最高レベルの勉強をするのだと考え、どうか今やっている一つ一つの勉強を確実に身に付けて下さい。

(6) 開倫塾では、小学生、中学生、高校生それぞれの「高等教育機関での教育に耐えられる基礎学力とは何か」を、皆様にとって無理のない範囲で少しずつお示ししていきますので、ご期待下さい。

**Q　例えば、どんなことですか。**

A　(1) 授業の受け方を示します。テキストや副教材が用意されていて理解すべき内容が予め示されている場合の授業では、メモを取る必要がありませんので、手を机の上におき、先生の目を見ながら「理解」に努めると、学習効果は高いと思われます。テキストや副教材がない場合、つまり理解すべき内容が予め示されていない場合は、先生のお話しになる内容をその場で一語一句正確にメモし続けることも大切な授業の受け方です。(「理解」したことをその場で「暗記」、つまり「記憶(きおく)」できる場合は別ですが…。)

(2) 一度理解したことを「定着」させるためには、必ず「定着のための作業時間」が一定時間必要です。その場合は、TVやケータイ、ゲームなどから一切離れ、また、他の学習者と目線が合わないほうがよいようです。壁や窓に向い一人コツコツと何時間か頭を上げずに過ごすことができるのは、大学などでの勉強に耐えられる一つの能力であります。「開倫塾の自習室」の真の目的はそこにあります。

(3) これまでの「開倫塾ニュース」で私が、このように勉強したらと塾生の皆様に示し続けたことの大半は、高等教育機関での勉強に耐えられる勉強方法であり、小学生や中学生、高校生のうちから身に付けたほうがよいと考えるものであります。

## ３．終わりに　ー「知識社会に対応できる自己学習能力」を身に付けようー

**Ｑ　だんだん塾長のおっしゃりたいことがわかってきました。最後に一言どうぞ。**

Ａ　(1) 塾生の皆様が人生の大半である20歳台から80～100歳台までの60～80年間をお過ごしになられる21世紀は、人類が未だに経験したことのない高度の「知識社会」であります。自分の中で大切にしているもの・価値があると考えるもの・善いことであると考えるものを、もっともっと磨き込んで、もっと大切なもの・もっと価値のあるもの・もっと善いものにできる世界で、皆様は20歳台から生きていけるのです。大学などでも学ぶことができますし、気をつければ誰でも100歳以上まで生きることができます。

(2) ただし、これには2つの条件があります。学校での勉強を基礎にして、新聞や評価の高い雑誌や質のよいTVやラジオ、ホームページなどで質のよい情報を確実に受け取り、生活や仕事に役立てることができることが第1の条件です。様々な考えや文化的な背景を持った人々と、自分との違いを違いとして、事実は事実として素直に認め、自分を大切に思うのと同じように、他の人も大切に思い、その上でコミュニケーションを図りながら、意見を交換したり、行動をともにすること、つまり「多様性」に対応できることが第2の条件です。

(3) 塾生の皆様はどうか「知識社会」とは何かに目を向け、その中でどう自分の善さを伸ばしていったらよいかをお考え下さい。保護者の皆様も、お子様がこれから生きる「知識社会」とは何かをお子様とともにお考えになり、お子様によいアドバイスをお与え下さい。「地域社会]の皆様におかれましては、知識社会に対応できるものとして地域全体をどう改革すべきかを考えた上で、産・官・学が十分連携して、その地域の善さを伸ばすという見地から知識社会に対応できる独自の「クラスター」づくりをめざして頂きたく希望します。

(4) 「知識社会」に対応できる「自己学習能力」の育成こそが、個人にとっても、地域にとっても、もしかしたら国家にとっても必要不可欠なのが、21世紀であると思います。

(ブラッセルにて記す)